

## にいがた県民教育研究所

## 新潟市婦人会員のつどい

〈速報〉

—五月一七日

新潟中央公民館にて

「教育」、「学校」という名のもとでわが子の心や身体が傷つけられても、親は黙っていなくてはならないのかしら? 親がわが子を人間らしく育てたいという心が家庭の中だけでなく、学校・地域でも実現するには、今、親は何をすればよいのかしら? —そんな思いで、よびかけられたのがこの「にいがた県民教育研究所新潟市婦人会員のつどい」です。

新潟市の婦人会員は五〇名。それぞれ、母であり、妻であり、子育て・家事の中心的役割を果たし、そして地域社会の担い手でありさらに、働く女性であったりと一人の婦人の

生き様の多様なこと。地域・家庭・学校を人間らしくつくり上げていく力は何か、を考えたときに、この総合的な生活力をもつ婦人の力を中心に据えないでおれません。

当日は「つどい」のよびかけ人の一人である、斉藤邦子さんから「父母が学校へ期待し要求すること」というテーマで話題が提供されました。「のびのびと育てたい」と思いつつも学校では「家庭で基礎学力をつけてやってください。」と言われる。親のあせり。子どもの身体に異状が表われたとき、「早く芽を出せ柿の種」はもうやめたと思いきれた。地域のお母さん方と家庭塾を始めてみたが…。

この後の討論でも、地域・学校・保育園をめぐって様々な思いが熱心に出されました。学校での深刻な体罰の実態等も出されました。(この討論詳細については次号の教育情報でご報告いたします)。「つどい」の最

後は、西蒲原のフォークグループ「なじらねウトネッカーズ」のミニミニコンサートで楽しく過ごしました。私たちはこのつどいをすべての親のわが子への思いを「科学」としてとらえ、社会的行動への一歩を踏み出す場としていきたいと思えます。

(竹内貴美)

## 表紙絵について

「建物シリーズ」で「文明開化のおいのする」と編集部からのご注文。しかし、新潟市役所観光課推せんの数か所が指定されていました!

まだ時間があるわい、とタカをくくっていたのが大間違い。実は、建物を描いてうならせる絵はユトリロとか佐伯祐三とか、ごく稀にしかない。小雨降る中を、昭和十一年建設の電鉄——白山駅前に圧倒されとおしの私……悪戦苦闘の末、電灯ともる日没後のペン画です。今後ともよろしく。

(桑名義夫)